

第2学年国語科学習指導案

日時 平成26年9月30日(火) 5校時
 児童 男12名 女11名 計23名
 指導者 教諭 小田嶋 正彦

1 言語活動のGPS (Grade=発達段階の明確化, Process=学習過程の明確化, Style=言語活動の種類や特徴の明確化) 「单元名 どうじょうじんぶつの気持ちをそうぞうして、音読げきをしよう」

児童の実態			
○関心・意欲・態度	○身に付いている言語能力	○まだ身に付いていない言語能力	○既習事項・内容
<ul style="list-style-type: none"> 毎日音読に取り組む児童が多い。 図書館から進んで本を借りている児童が多い。 進んで考えを話せる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 語のまとまりやリズムを意識しながら音読する力。 登場人物の行動を捉えて読む力。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の性格や心情の変化を読み取る力。 言葉の響きやリズムに注意して音読する力。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動を想像して読むこと。 語のまとまりに気を付けて音読すること。

「読むこと」の能力を育てるための指導事項

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。【読むこと(1)ウ】
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。【読むこと(1)ア】

本单元で身に付けさせたい力

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む力。
 ←登場人物の好きなところを選んで音読のしかたを考える。
- 人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、言葉の響きやリズムに注意して音読する力。←好きな場面について、語のまとまりや言葉の響きに気を付けて音読する。

表現様式 「親友音読劇」 (がまくんとかえるくん) 場面ごとに、登場人物の会話を中心にした音読劇。	言語活動 ◎「お話を読んで、音読劇をしよう」 ・登場人物の行動を想像し、声の出し方を工夫して音読劇をするために、会話の前後の言葉に気を付けて、毎時間、音読の工夫を行う。
---	---

言語活動を支えるための知識・技能		
○言葉の響きに気を付けて音読する。 ・語のまとまりや言葉の響きに気を付けながら音読する技能。	○登場人物の行動から想像を広げて読む。 ・それぞれの場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心にして読み取る技能。	○読書に進んで取り組む。 ・自分が読みたい本を考えながら、本を選んで読書する技能。

学習材 「お手紙」(光村図書2年下)
 並行読書 『ふたりはともだち』など同じ作者の作品(アーノルド＝ローベル作・絵)

指導計画の作成

第一次－「お話を読んで、音読劇をする」という見通しをもち、学習計画を立てる。
 第二次－『お手紙』を読み、音読のしかたを考える。
 第三次－シリーズ本を読み、音読劇をする。

2 児童への事前調査

調査項目	すき	どちらかというとき	どちらかというとき	きらい
Q 1. 国語の学習は、好きですか。	1 3	7	1	2
Q 2. 説明文の学習は、好きですか。	1 3	8	2	0
Q 3. 物語の学習は、好きですか。	2 1	2	0	0
Q 4. 話し合う学習は、好きですか	1 8	3	1	1
Q 5. 読書は、好きですか。	2 2	0	1	0

(調査人数 23人 平成26年6月調査)

3 単元の指導目標と評価規準

指導目標	関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語と文化と国語の特質に関する事柄
	・場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。	・登場人物の行動や会話を手がかりに、中心人物の心情の変化を読み取り、登場人物になりきって音読をすることができる。	・誰が、何をしたかを考え、主語と述語の関係を意識することができる。
評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
	・登場人物の気持ちを理解して、音読劇に表そうとしている。	・人物の行動や場面の様子について、想像を広げながら読んでいる。(ウ) ・人物の様子や気持ちが表れるように音読している。(ア)	・主語と述語の関係を理解している。(イ(カ))

4 単元の指導計画と評価計画(12時間)

次	指導目標	時	主な学習活動	具体的評価規準
第一次	・シリーズ本の読み聞かせを聞いて、並行読書に意欲をもつことができる。	1	○シリーズ本の読み聞かせを聞く。 ○モデル音読劇を見る。 ○「親友音読げきをしよう」という学習課題を知り、学習計画を立てる。 ○シリーズ本(4冊)の並行読書のしかたを知る。	シリーズ本の読み聞かせを楽しんで聞いている。 (関心・意欲・態度)
	・「お手紙」の設定を捉え、一番心に残ったところを書くことができる。	2	○「お手紙」の範読を聞く。 ○挿絵の並べ替えを通して「お手紙」の設定(登場人物、場所)を捉える。 ○「お手紙」の一番心に残ったところとその理由をノートに書く。	「お手紙」の一番心に残ったところとその理由をノートに書いている。 (関心・意欲・態度)
	・がまくんの悲しさを理解し、音読で表すことができる。	3	○誰の会話文かを考え、登場人物のマークを書く。 ○がまくんの悲しい気持ちを理解し、会話を音読する。	お手紙をもらえないがまくんの悲しい気持ちを想像して読んでいる。 (読むこと ウ)

第二次	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんの行動から、急ぐ様子を読み取ることができる。 	4	<ul style="list-style-type: none"> かえるくんの行動を順番に確かめる。 かえるくんの行動と会話を音読する。 	かえるくんの行動を確かめながら読んでいる。 (読むこと ウ)
	<ul style="list-style-type: none"> 二人の気持ちを考えながら、音読することができる。 	5	<ul style="list-style-type: none"> お手紙を待っているかえるくんとあきらめているがまくんの気持ちを読み取り、三の場面（前半）の音読のしかたを考える。 二人の様子や気持ちを考えながら音読する。 	二人の気持ちを考えながら、音読している。 (読むこと ウ)
	<ul style="list-style-type: none"> 二人の様子や気持ちを考えながら、音読することができる。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 三の場面（後半）の二人の様子や気持ちを考える。 二人の様子や気持ちを考えながら音読する。 	二人の様子や気持ちを考えながら、音読している。 (読むこと ウ)
第三次	<ul style="list-style-type: none"> シリーズ本から音読劇にしたいお話を選ぶことができる。 	7	<ul style="list-style-type: none"> グループで相談し、シリーズ本（4冊）から音読劇にしたいお話を選ぶ。 	シリーズ本から音読劇にしたいお話を選ぼうとしている。 (関心・意欲・態度)
	<ul style="list-style-type: none"> シリーズ本の音読劇にしたい場面を4人組で話し合うことができる。 	8	<ul style="list-style-type: none"> 4人組で音読劇にしたい場面を選ぶ。 選んだ場面をノートに視写する。 	シリーズ本の音読劇にしたい場面を選ぼうとしている。 (関心・意欲・態度)
	<ul style="list-style-type: none"> 音読劇にしたい場面の読み方や動きを書き込むことができる。 	9 本時	<ul style="list-style-type: none"> 音読劇にしたい場面の読み方や動き方について書き込む。 読み方や動き方の工夫について4人組で意見を伝え合う。 	登場人物の会話の読み方と動き方について書き込むことができる。 (読むこと ウ)
	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や語り手になりきって、4人組で音読劇の練習をすることができる。 	10	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や語り手になりきって、4人組で音読劇の練習をする。 	登場人物や語り手になりきって、4人組で音読劇の練習をしている。 (関心・意欲・態度)
	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物や語り手になりきって、4人組で音読劇の発表をすることができる。 	11	<ul style="list-style-type: none"> 親友音読劇を発表する。 	登場人物や語り手になりきって、4人組で音読劇の発表をしている。 (関心・意欲・態度)

・音読劇の感想を書き、互いに伝え合うことができる。	12	○音読劇の感想を手紙形式で書く。 ○書いた手紙を交流し合う。	手紙にふさわしい形式で書こうとしている。 (関心・意欲・態度)
---------------------------	----	-----------------------------------	------------------------------------

5 本時の指導 (9 / 12 時間)

(1) 目標

音読劇をしたい場面に、読み方や動き方を書き込むことができる。

(2) 具体の評価規準

A	B	指導の手立て
登場人物の気持ちにふさわしい読み方や動きについて書き込むことができる。	登場人物の会話の読み方と動き方について書き込むことができる。	教科書の書き込み例を挙げながら、書き方を考えさせる。

(3) 本時の指導事項

並行読書で進めていたシリーズ本から、音読劇にしたい場面を4人組で決め、ノートに書き写したものに、読み方や動き方について書き込むことを本時の目標とする。

はじめに、書き込み方を確かめ、ノートに書き写したものに、各自が読み方や動き方について書き込む。次に、書き込みをもとに、一人で音読練習をして書き込みが登場人物の気持ちに合った読み方になっているか確かめる。最後に、自分が書き込んだことをもとに4人組で発表し合い、どのような読み方がその場面に合っているか話し合う。

以上の活動を通して、シリーズ本の選んだお話の場面の音読のしかたを確かめ、「親友音読劇」を発表することへの意欲に結びつけたい。

(4) 展開

段階	学習活動	発問や指示 (○数字) 児童の反応 (・)	評価(*) 及び留意事項(・)
つかむ 5分	1 4人組が選んだお話を確かめ合う。 2 本時の課題を確かめる。	○選んだお話の題名を発表します。 ・「 <u>けろがきた</u> 」です。 音読げきをしたいばめんに、読みかたやうごきかたを書きこみましょう。 ○選んだお話を確かめよう。	・並行読書で読んだ本を提示し、どんなお話があったか想起させる。 ・登場人物の気持ちに気を付けて読み進めることを確かめさせる。
さぐる 20分	3 会話文の読み方や動き方をノートに書き込む。	○選んだお話を音読しましょう。 ○書き込みのしかたを確かめます。 読み方→波線と書き込み 動き方→書き込み ○書き込んだことに気を付けて、一人で音読練習をしましょう。	・音読したい場面を絞り、ノートに視写しておく。 ・教科書の書き込み例を参考に、書き込みの仕方を黒板に掲示する。 *登場人物の会話の読み方と動き方について書き込んでいる。 (読むこと ウ)
	4 読み方や動き方を	○書き込んだことを3人組で発表し合	・友達の書き込みのしかた

	<p>読みかた ↓ なみ線と書きこみ</p> <p>うごきかた ↓ 書きこみ</p>	<p>お手紙</p> <p>アーノルドローベル</p> <p>さく</p>	<p>せ、いろいろ ることに気 方の工夫に 云え合って 次・態度) ノートを拡 る。 りを行い、 る。 劇の練習を ることを告げ、意欲を 高めさせる。</p>
5分	る。	練習をします。	ることを告げ、意欲を高めさせる。

(5) 板書計画

いきをはきながら。
「ああ。」
がまくんが言いました。
にっこりして
「とても いいお手紙だ。」

かなしそうに。
「だれも、ぼくに お手紙なんか
くれたことがないんだ。毎日、
ぼくのゆうびんうけは、空っぽさ。
かえるくんを見る。
お手紙をまっているときが
かなしいのは、そのためなのさ。」

②音読げきをしたいばめんには、読みかたや
うごきかたを書きこみしよう。